



臨時増刊号

LIONS NEWS

LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 330-A

2024 March



写真撮影：2024年1月5日 公益社団法人 東京青年会議所目黒区委員会 所属 大和田健斗氏



2024.1.1 発生 能登半島・北陸地方地震 支援活動報告

2024年元旦夕刻に発生した、能登半島・北陸地方地震から約2か月半が経過しました。東京地区、約190のライオンズクラブ（以下 LC）は、各所で募金活動を始め市民へ被災地支援を呼びかけました。支援の募金から1月中に2度、富山県高岡アラート LC、石川県能登 LCの協力のもと被災地域のニーズに合致した高齢者用おしめ、下着などを送りました。

また、2月4日～5日にかけては330-A地区のメンバーが能登市、珠洲市、輪島市などの現地へ入り足元を温める靴下など不足している生活必需品配布や、すき焼き弁当、根菜うどん計650食の炊き出しを行いました。本デジタル緊急速報版では、都内各所で展開された募金活動の様子と被災地支援の実績等を報告いたします。これまで、東京地区 LC は、東日本大震災、熊本地震、千葉県台風災害などの被災地支援を行ってまいりました。刻々と変化する被災地のニーズ変化を現地 LC とのネットワークを駆使して探り、これからも情報発信し、長きに渡り被災地に寄り添うサポート体制を継続していきたいと考えています。

今後とも皆様のご支援、ご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。 330-A 地区 広報 IT 委員会

令和6年能登半島地震災害支援【街頭募金活動】 金額 12,740,362 円 2024年2月19日 月曜日現在

写真撮影：2024年1月5日 公益社団法人 東京青年会議所目黒区委員会 所属 大和田健斗氏

330-A地区 阿部かな子ガバナーによる 能登地震支援活動



330-A 地区 阿部かな子ガバナー・幹事団、緊急アラート委員会が2月4日～5日 能登半島能登市、珠洲市へ被災地支援活動を行いました。高岡アラートLC、能登LCとの協力によって一致団結して被災地域のニーズに合致した支援活動が円滑に行うことができました。その支援の報告と2月4日～5日の被災地の様子です。

2024.2.4-5 阿部かな子ガバナーによる 輪島地区支援活動報告
<https://youtu.be/LE9z89vw3qk>



阿部かな子ガバナー インタビュー

阿部ガバナー 私は東日本大震災、熊本震災や千葉の台風の時にもおよそ1ヶ月以内には支援に行っていて感じた事、体験した事を描き、何が必要かという事をお聞きするだけではなく、地域毎の違いやその地域の方々と直接お話が出来たらと思い、行って参りました。まず、私は能登に入り、珠洲市は緊急対策・アラート・復興支援委員会に対応して頂きました。珠洲市は数日前にボランティア入りが行政から認可された直後の支援でした。まず SNS で現状の把握から二次災害の心配も有りますライオンズという組織としての動きですから、まずはライオンズクラブの SNS 上で能登 LC の次期 ZC と私がメッセージで連携を取り現地の状況について直接確認する事から始めました。そこで今期アラート委員長が繋がりがあった高岡 アラート LC との連携を経て、必要な物資を送る事に決めました。

支援第一弾は、まず避難所の女性がやはり困られているという事で生理用品に困っている、との事。県内で買える薬局がある事を確認出来たので高岡で高岡アラート LC に立て替えて買って頂き、高岡アラート LC の能登での炊き出し現場に生理用品やお年寄り用のおむつなどを高岡アラート LC と能登 LC 次期 ZC を通じて避難所へ届けました。第二弾は、下着と（お水が全く出ないので）トイレ問題です。アマゾンで紙の使い捨て下着を買えるだけ購入して男性・女性用を仕分けした後に高岡アラート LC に送り、高岡アラート LC が代理で能登に運んで頂きました。皆さん泣いて喜ぶぐらい、やはり感染や臭いなど、まだひどい状況のようでしたので、ひどく喜んでくださいました。第三弾として、能登に入る事の許可を得て、実際に、2月4日、現地に入りました。

まず新高岡まで入り、お世話になっている高岡アラートの事務局にて、地区アラート委員長、委員会の皆様と待ち合わせ、334-D 地区ガバナーもいらして頂き、お見舞いをお渡しし、その後、三時間ほどかかる能登町に高岡アラートの方の車に乗り、必要物資を積み向かいました。

お年寄りなどが歯ブラシもできない状況でしたので感染症対策の為に「お口、クチュ、クチュ。モンダミン」などの衛生品や靴下をユニクロなどで買い、直接避難所にいらっしゃる方々にお配りする事ができました。

地区アラート委員長、委員会はその日は、珠洲市に必要な物資を揃え、珠洲市に入って頂きました。



Ⅲ 三代 過去の災害時、「現地で足りていない物と全国から送られてくる物とのミスマッチ」が頻繁に問題になっていましたが、ライオンズの全国的なネットワークが活かした好例かもしれませんね。現地ではその他どのような声を聞いてこられましたか？

阿部ガバナー 東日本の時は水の災害であったり、熊本、千葉の時とそれぞれ状況が異なります。バツと全国から物資は集まるのですが、その後、その物資を置く場所に砂が被って送った物資が余っていたり、それらを避難された方々のお手元に届ける術が無い事が問題になっています。

過去の被災地で私はその光景がすごく印象に残っていて、本当に欲しくて困っている方々の手元に、皆さんが集めて下さった募金をダイレクトに届けるべきだと判断したので、そのような動きを意識しました

現地の状況や生の声現地では避難所の皆さんや石川県のガバナーの声を聞く事が出来ました。問題だと感じた点は、ちょっと落ち着くとお年寄りが壊れている自宅にでさえ帰ろうとされたり、あるいは息子さんや娘さんがその避難所にいる事を聞き取り親族が連れ帰るのですが、避難所にいる方々にはお靴等が配られる一方で、自宅等に帰られた方々には届かないという問題が起きていました。その声は行政にも届けて欲しいと言われました。そしてもう一つ、現地で何が起きているかという泥棒！しかも自衛隊と警察官の格好した泥棒がすごいらしいです！その手口は、お年寄りなどをターゲットにして「避難所へ何時ぐらいに戻りますか？」と質問するのです。その情報を元にして、在宅していない時間を狙って泥棒に入るわけです。人間としてあり得ない。命を守る以前にそういった心配も追加で心配しないといけなのですかね。そういう人がこの世にいるということ自体がおかしいのですけれども、そういった事からも身を守らなければいけないのも現実として起きています。

石川県のガバナーは支援金や寄付金をどこへどのように活用すべきか、頭を抱えていらっしやいました。

330-A からもお見舞いを少し、その他全国の LC からかなりの支援金があり、LCIF からの支援金 10 万ドルと皆様からの LCIF 要請金 2000 円分のお金が集まります。このようにいち早く被災地やガバナーに直接届けたいお気持ち、私もすごく分かります。私もライオンズ入会当初は、組織経由では遅いから直接届けようと、実際届けたりしました。

現地は現地で様々な対応に追われていて、最善最適な使い方をなかなか迅速に定めきれない現状。

今回、(2月7日時)330-Aでは800万円ほど集まりましたが、その大半の約600万円がLCIFを希望されていて、キャビネットへは200万円を委ねて頂きました。もっとキャビネットを信頼して預けて頂ければ、現地と離れているからこそできる事、フットワークや判断の早さによってやれた支援もきっとあるはずです。「信頼していないから直接」という想いは、被災した方々に届くのが余計に遅くなるかもしれないという現状です。行政やLCIFに出来る事と、キャビネット単位だからこそ出来る事には違いがあるはずで適材適所ではないでしょうか。

L 三代 個での動きもいいがキャビネットを信じて欲しいというご意見もありましたが、それ以外に何か、募金活動についてメンバーにシェア したい事、伝えたい想いがあればお願いします。

阿部ガバナー 炊き出しも地域や状況に応じてという点です。珠洲は未だですが、能登では薬局やコンビニが開き始めました。例えば、町役場のお土産売り場コーナーではドーナツ販売など、現地の方々が商売を再開されていました。地域の方からは「炊き出し無料は嬉しい。みんな嬉しい。けれども地域の人々がまた再起の念でお店を再開した際にはそこへお金を使う事も考えて欲しい。」というお声も耳にしました。無料の炊き出しが被災者の商売の復活を遅らせる原因にもなり得るという事です。一つの打開策はお見舞金の配布かなと思いました。店舗の再開がこれからの珠洲市や海沿いが一変してしまった東北震災などはさておき、それ以外の地域ではこのような支援の形も有るのではと感じます。

L 三代 中井ガバナー期に東京都の社会福祉協議会と協力協定を結ばれていると思います。今回の能登半島現地でも社会福祉協議会がボランティアの割り振りや焚き出し場所の確保など、多岐に渡り情報を持って動かれていると聞いています。今後も 330-A では、継続的に東京都の社会福祉協議会と交流を深めて、万が一に備えていかれるのでしょうか。

阿部ガバナー 中井期で結んで頂いたこの提携は素晴らしい事だと思っております。私も今期、社会福祉協議会だけでなく他団体との連携を進めており、こういった連携は維持すべきだと考えています。各協定書の内容もしっかり拝見し、中身の見直しも含めて継続していく考えです。

L 三代 今回の能登に限定せず、今後の災害対策や災害支援について 330-A のメンバーにその他伝えたい事、共有したい事などがあればお願いします。

阿部ガバナー 日常的に家族と被災に備えた会話をしておいて頂きたいです。元旦にこのような事態が発生したり、何時どこでどのような災害が起こるか分からないのがこの日本です。やはり「自分の命は自分で守る」という事です。震災がある度に思い出すのではなく、日常的に「被災時どこにどう動くか」について家族と確認しながら日々過ごして頂きたいと思います。

定期的な備蓄品の見直しを今回私も見直したところ、8 年前に期限を迎えていた物もありました。いざ被災した際にそういった備えが有るのと無いのとでは状況が一変しますし、とっても大事な事です。

他地域ライオンとの連携強化を首都直下型は更に大変な事態になると予想します。そうなった時、全国のライオンが心配して「直接」というお気持ちが仮に 330-A キャビネットに集まったとしても、それをすぐに皆さんに届ける事は難しい状態だと思います。何故ならまず、家族、会社など、自助をしっかりし、それから皆様から集まった支援金をどう使うか、となります。近隣のライオンズの皆様のお力をお借りし物資などは届けて頂く事になるかと思います。

それこそ日本全国で繋がっているライオンであれば、仮に東京が停止した場合でも、少し離れた横浜や山梨が機能している事を確認出来れば、そちらにお願いして「最短ルートで必要とする地域に届ける方法」が見付けられるかもしれません。

「やはりライオンズの力、ライオンズのネットワークを活用して頂きたいと思うので、日頃からそのネットワーク構築やコミュニケーションも意識して頂き、いつか来る首都圏の災害に備えて頂ければと思います。

今回、必要とする物資が必要な方々にお届けできたのは、このライオンズの横の繋がりのおかげです。



輪島市門前町炊き出し支援について



2月4日～5日、330-A地区内24クラブが協力し、令和6年能登半島地震で甚大な被害を受けた「輪島市門前町」に於いて昼食(650食)の炊き出し支援活動を行いました。この支援活動は以前から交流のあった東京都社会福祉協議会の担当職員からの依頼が発端で、国際NGO団体の公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下SVAは、市より支援要請書発行団体⇒門前町災害対策本部から支援と避難所の運営を任されている)が炊き出し支援団体を探しているという連絡でした。

1月13日時点で、20ヶ所の小規模な避難所が点在していて2,000人以上が生活されている状況でした。「炊き出しの支援が薄く来ていただけたらどんなに皆さん喜ばれるか」その言葉を聞き最初は少人数の東京上野南ライオンズクラブ(以下LC)では無理だと断ろうと思いましたが、クラブ内で時間をかけて検討しました。当LCには準会員として災害支援に経験豊富な東京五反田LC野村Lが在籍中で相談したところ「LCを信頼して依頼されたのだから有志を募ってやってみよう」と力強いコメントがあり準備を開始しました。

SVAの担当の方からはなるべく早く来ていただきたいとの連絡がありましたが現地に同行して炊き出しが出来る人を探すところからだったため余裕を持って2月4日～5日に実施すると決定しました。

今回の支援は、単一のクラブではなく330-A地区内有志で実施すると決め、親交のあるメンバーを中心にお声がけをしました。ひとつのクラブ予備費ではカバーしきれない大規模な炊き出し活動となるため支援内容を丁寧に説明し、賛同して下さった多くのメンバーからのドネーションによって実施出来たことをここに報告いたします。また、資金面だけでなく支援物資等を運ぶためにスタッドレスタイヤ装着のトラック、要望のあった支援物資・食材や調味料・水などの飲料・大鍋までほとんどのものを有志からの原価提供また貸出があったからこそ実現できました。

現地では4日:20名,5日:13名で活動(330-B・Cメンバー,ノンライオン含む)。特に前年度複合アラート委員長であった330-C大屋元地区ガバナーを顧問とする有志の団体である「Club PRIDE」のメンバーにはドネーションを含め多大なるご協力を頂戴しました。

現地の様子として、調理をする場所は門前公民館の調理室を使用させていただけたので(プロパン)ガスや電気も使え普段通りかつ衛生的でしたが、断水は頭では理解しているつもりでも習慣で蛇口をひねってしまう...思っていた以上大変でした。

炊き出しは2か所に分かれて提供なおかつその中でも門前公民館150人(40人、60人、20人、30人の4つのグループ)また諸岡公民館150人(100人、50人の2つのグループ)と小さな避難所ごとに世話役が取りに来る段取りとなっていたため長い行列になりましたが、お待たせするということはありませんでした。先ず温かいお料理の提供を一番に考え献立を4日すき焼き弁当、5日根菜うどんと牛肉しぐれ煮としました。牛肉は「今半のすき焼き弁当」と同じお肉を小島商店が特別に提供して下さり両日ともに大変好評でした。

今回の支援について総括すると、被災された地区の LC メンバーを煩わせることなく輪島市から委託されている団体 (SVA) からの要請で炊き出しができ何より単一のクラブでは諦めてしまう大規模な支援を同じ想いを共有する LC メンバーの協力により実施出来たことは、大変意義あることだと思います。

災害が起こった際 LC はボランティアの後方支援をする存在であるべきと考えていましたが、「ライオンズクラブの顔が見える支援」を期待されていると実感しました。

今回のご縁で現地からリアルな声が届いています。1 避難所格差というべき事態が起こり小さな避難所には段々と支援物資が届かなくなっている 2 自宅が倒壊し帰る場所がないからここで踏ん張るしかない !!

時間の経過とともにニーズは変わり年齢や性別によって必要でないものもある。「全国にネットワークのある LC だからこそ出来る無駄のないピンポイントの支援を今こそするべき時なのではないでしょうか !!」現地に行ったからこそわかることを伝える責任があると強く感じています。

今回は地区内外多くの有志の力を持って出来た支援でした。ご協力いただきました全てのクラブ・メンバーへこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

- ・トラック提供：東京目黒 LC 富田元地区ガバナー
- ・支援物資提供：東京浅草飛翔 LC・東京マリア LC・東京番町 LC・東京光ヶ丘 LC・東京八王子いちよう LC
- ・食材など提供：宇田川 L・小川 L・小倉 L・小林淳 L
- ・ドネーション：東京数寄屋橋 LC・大田 L・脇村 L・今井 L・高根澤 L・大久保 L・佐々井 L・太田 L・山内 L・後藤 L・山本 L・佐藤 L・金子 L・遠藤 L・潤・愛怜 西入間 LC・大屋 330-C 元地区ガバナー (Club PRIDE) 東京五反田 LC(星野 ZC・令夫人・神野幹事・松沢 L)・東京上野南 LC
- ・現地同行：野村 L・前田 L・加藤 L・恩田 L・宮入 L・織田 L・野村 L ご子息

※地区内 24 クラブからご協力いただいた。

事業規模を公開すると、炊き出し支援活動費合計は約 800,000 円。内訳：食材費 (約 300,000 円)・支援物資 (約 100,000 円)・調理器具や容器代 (約 90,000 円)、ガソリン代 (約 80,000 円)・支援金避難所 3 か所 (約 200,000 円)・雑費 (約 30,000 円)。なお宿泊・食費は自費。輪島市内に宿泊施設がないため金沢市内としました。門前町 まで悪路や渋滞が発生しており往復 5 時間近くかかりました。

結びに最初に相談があった東京都社会福祉協議会の担当職員から私どもへ炊き出しを依頼したことに責任を持ちたいと ... 輪島市が災害ボランティアセンターを立ち上げていないため本来発行されない災害ボランティア活動受け入確認書を特例で取ってくださり今回は高速道路無料措置が適用されたことも併せてご報告いたします。

東京上野南ライオンズクラブ 幹事 L 根岸 久美子





清水義夫 L(会長)

坪坂 有純 L

宮越康隆 L(幹事)

竹森孝 L

富山平成ライオンズクラブ様へのインタビュー

富山市内にて 今回 3 名の方がインタビューに答えてくれました。1 月 31 日 14 時半～

●能登半島地震が発生した 1 月 1 日の様子 ・清水 L: 会社事務所の 2 階にいました。戸棚の中のものが全て飛び出して、足の踏み場がないほど散乱しました。物が壊れたり、割れたりして、ガラスの破片が散らばった状況でしたが、家族はみんな無事でした。片づけをして翌日から元の暮らしには戻れました。・宮越 L: 娘などとみんなであつくりと過ごしていました。強い揺れは感じましたが、写真立てが倒れただけで大きな被害はありませんでした。平屋で新しく建てた家なので、それも関係しているかもしれません。・竹森 L: その日は家族で、小松空港(石川県)14 時発の飛行機に乗って沖縄に行っていました。沖縄に到着した時に、地震が発生していたことを知りました。周りの乗客の中には、「石川にいる家族と連絡がとれない」と慌てている方がいました。1 月 4 日富山に戻ってきたら、家の冷蔵庫が開きっぱなしで、中のものが飛び出ていました。マンションの 5 階に住んでいる娘の家は、家中のものが倒れて、床に散乱していました。高い場所の方が被害が大きかったみたいですね。

●震災発生後の被災者の方に向けた活動 富山平成 LC(広島)、熊本平成 LC、東京平成 LC から能登地震における支援金の申し出を受けて、我々富山平成 LC を合わせた「全国平成同名友好会」4 クラブで、富山県内でも特に被害が大きかった氷見市にある氷見 LC に合計 80 万円を 1 月 25 日に寄付しました。限られた予算ではありますが、寄付金は震災被害の片付けや、炊き出しなどに使われる予定です。富山・石川・福井が所属する 334-D 地区のメンバーは高齢者が多いので、前線のボランティア活動ではなく、物質支援などを含めた後方支援をメインに行っていくつもりです。あとは、LCIF から 10 万ドルの寄付がありました。この 10 万ドルは、被災地である石川県にある 7 クラブに寄付する予定です。現在富山・石川・福井の 3 県のキャビネットで、どのように分配するかを話し合っています。他にも被災地である石川県に問い合わせ、必要な物資などを確認しています。1 月中には、別で設けている 334-D 地区全体での支援金も集め終わります。これは所属メンバーが 1 口 3,000 円以上で行っています。可能かどうかは検討しなければいけませんが、クラウドファンディングなども視野に入れて、今後も被災地に対して支援を行っていきます。

●被災地(石川県)の現状 1 月末時点石川県でも特に被害のひどい輪島市や珠洲市のクラブとは、まだ連絡も取れていません。交通規制もあるので、住民以外がそのエリアに行くこともできず、ボランティアの募集もストップしています。そのエリアの役場の人たちも事務処理など含めて手一杯な状態だと聞いています。現在石川県七尾市、穴水町、志賀町にはボランティアセンターが設置されています。

●富山平成 LC からのメッセージ 被災地の現状を考えると、今回限りの支援で復興できるものではありません。3 年、5 年と長期での支援がなければ復興は難しい状態です。毎年持続的にライオンズクラブとして支援を行うことで、少しでも復興が早くなるのではないかと思います。全国の方たちには、地震直後だけではなく、長い目で今回の震災に対する支援を考えてほしいです。3 月からは北陸旅行支援も始まります。支援金以外にも、実際に石川や富山に足を運んでもらい、旅行してもらうことも 1 つの支援になります。多くの方が支援の気持ちを忘れず、一人ひとりができる範囲で支援を続けていってほしいです。

<取材を終えて> 1 月 1 日に能登半島地震が発生して時間が経つにつれて、東京などでは震災に関するニュースを目にする機会も減ってきています。しかし、石川県をはじめとする北陸の方たちにとっては、まだまだ身近な問題で、今後の課題が山積みであることを実感しました。全国、特に我々 330-A 地区のメンバーには、復興のためには長期的な支援が必要であることを忘れないでいただきたいです。

取材担当: L 坪坂 有純(東京新宿 LC・富山県出身)

全国の平成を名乗る LC 間に交流があり、今回東京平成 LC から紹介を受け震災時と現在の様子取材しました。